

事業名称	姫路市産材活用・広域連携事業「杉活」
団体名・代表者	一般社団法人ひとネットワークひめじ 代表理事 松岡淳朗
協働の相手方	企画政策推進室・農林整備課・中心市街地活性化推進室

目的	姫路市が平成18年に合併をおこない、新たに姫路市となった「安富町」。そこには山間部が広がり、資源が豊富であり林業を行う会社もある。その安富町の自然の資源である木材の価値を見直し、木材と安富町の魅力向上、資源の消費の喚起、PRを実施することにより、地域資源と安富町及び周辺地域を未来への継承に寄与することを目的とする。
内容	・姫路市産材「とみす杉」を活用した什器の制作、及び什器の活用によるPR ・市民に向けた「とみす杉」のPR活動（杉のリースづくりWS）の実施 ・安富地区住民へのアンケート
事業経過	10月7日 作成什器デザイン相談及び木材の発注 11月1日 住民へのアンケートの実施 11月5日 PRパネルデザインの打合せ 11月17日 森林林業体験フェアへの参加 会場：グリーンステーション鹿ヶ壺 11月18日 花と緑のガーデンフェアへの参加 会場：大手前公園 11月20日 什器作成開始 12月15日 アンケート結果収集 2月6日 什器完成 2月14日 搬入 3月6日 什器を活用したイベントの実施及びPR
事業の効果	PRパネルの展示やイベントの実施などで、一般市民に向けた「とみす杉」の発信が出来、認知してもらえた。地域資源を今後発展させていくために、認知は重要なので、イベントに参加した市民がSNSなどで「とみす杉」を拡散してくれた事により、少しでも多くの人に存在を知ってもらえ、効果があつたと考察する。 什器制作によって、とみす杉の活用、消費が微々たるものだが促され、環境保全に微力ながら貢献できた。併せて制作した什器を駅前で活用していくことで、イベントをする者、またイベントに来る者、双方に発信ができる。重要なツールを作成できた。
今後の展望	今回の提案型協働事業で、得た情報、得た什器を更に活用していきたいと考えている。例えば、制作した什器をどんどん活用して行き、今回制作した什器をプロトタイプとして、発展、制作、販売など商品として展開していくことも考えられる。また小物や食器など「とみす杉」で展開していない製品などに発展させ、杉のブランディング、活用促進を進める。木材を活用する事によって環境保全へもつながる。得た利益は山の管理費用に還元する、などの展開も考えられ、地域資源で地域を守り、潤わせることを目標に展開していきたいと考えている。 そこには、地域住民の協力は必要不可欠なので、聞き取りしたアンケートを活用しながら、住民が望む地域の姿、将来像など、共に目指す動きを検討しこの活動に取り組んでいきたいと考える。（空き家のリノベーションなどの意見もあるので、とみす杉でのリノベーションなども考えられる。）

【実施団体の事業総括・感想等】

今回の事業を通じ2つの可能性が見えてきた。

1つは、とみす杉という資源をしっかりと活用することで、姫路の観光やブランドとしての価値の可能性はまだあるという可能性である。杉のリースづくりのWSを通して、「とみす杉」を知ってもらえるきっかけも出来たことも重要だが、本来もみの木で作るものが、杉であってもしっかりとリースとして成立し、市産材での製品が価値を持つことがわかった。併せて、什器を作成、活用していく中で一般市民向けではないかもしれないが、マルシェなどの運営主体や小売の出店者には好評で、デザイン性、利便性、可搬性など、もっと精度を上げていくと商品としての価値も需要も出てくると感じた。展開も幅が広くまだまだ多岐にわたり可能性のある資源だと強く感じた。

もう1つは、住民との連携による地域ブランディングの可能性である。安富地区に住む方へのアンケートを実施して、住民が魅力として自然の豊かさをあげているのだが、アイデアとしてはその自然という資源を活用して地域を活性化させようという意見はなかったのが印象的だった。他の地域（県外で林業を売りにしている地域）では山奥だからこそその自然、林業を活かして様々な取り組みで成功している事例もある。地域住民も巻き込みながら林業の振興を行うことで地域の活性化や地域の環境保全など、今まで取り組んでいなかった取り組みができる可能性があると感じた。地域住民が感じる地域の魅力を、地域の住民と共に考えることが重要になると思うので、これからは地域ならではの取り組みを地域の住民とともに実施していきたい。アイデアにないということが提案する意味を持つのではないかと考える。安富地区の林業関係者（地域住民ではない）は同様の考えを持っていたので、連携した取り組みに発展しうる可能性があると感じた。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください**【企画政策推進室】**

安富の「とみす杉」に着目し、安富町や姫路駅前等でのイベントを通じてそのPRをされたことは、地域資源を活用した地域活性化のための活動の第一歩となったと感じている。住民アンケートを実施し、地域の皆さんの意見も聞かれたことから、今後も地域の皆さんと協力しながら活動を進められることに期待したい。

【農林整備課】

森林林業体験フェアで地域産木材である「とみす杉」の葉を使ったリースづくりを行い、参加者の評価を得たことで「とみす杉」を地域の有用資源として活用していく可能性が見えた。

【産業振興課中心市街地活性化推進室】

「とみす杉」で作成した什器は、組み立ても簡単で、デザイン性にも優れ、統一感のある設えを演出することができることから、利用者にも好評である。今後も、駅前広場の利用促進への効果が期待できる。また、「とみす杉」は連絡デッキの屋根に使用されており、駅前広場においても、什器をイベントに広く活用することで、「とみす杉」の一層のPRにつながると考える。